

2019年度事業計画

理事長 田中一雄

翌年に迫った東京オリンピック・パラリンピックにむけて、日本経済も活力を維持しつつ活動を続けています。このような中、社会を創るインダストリアルデザインの役割も、更に重要性を増しているところであります。当協会は、デザインミュージアム事業、プロダクトデザイン検定事業、調査研究事業、セミナーや体験活動を通じた人材育成事業などを基軸とし、インダストリアルデザインの普及啓発活動を推進しております。2019年度においても、公益社団法人としての社会的価値を更に高めつつ、価値ある協会を強化推進していくことを事業目標といたしました。

具体的には、日本経済の根幹である企業活動における、デザイン価値向上を推進するため、インハウス活動の強化を進めます。また、100年に一度の大変革と言われるように、大きく社会は変容しています。そこでは、デザインの役割を狭義のデザイン定義に立脚する20世紀型から、イノベーションやコト創りを包含する21世紀型のデザインへとシフトチェンジしなくてはなりません。そのためには、協会組織の若返りを促進し、理事会活動を含めて有能な若手を登用し、次世代化を推進していく必要があります。さらに、協会に所属する高度人材によってアドバイザリー・コミッティを組織し、次なる組織変革の理念構築をおこないます。これらの事業を通じてJIDAの社会的価値を高め、世界的課題となっているSDG'sのデザインによる達成に貢献して参ります。その結果、日本のインダストリアルデザインの価値が世界に評価されるものともなるでしょう。2019年度も、このように多様な公益活動に邁進してまいります。

■2019年度の活動骨子

●各種セミナー・体験活動事業

デザインの普及啓発及び教育目的のセミナーおよび体験活動事業は、JIDAの活動の柱であります。今後ともさらに魅力ある企画の立案に注力し、広く一般や海外にも門戸を広げた参加者にデザインの価値を訴えていく活動をさらに強化してまいります。

●デザインミュージアム事業の連携強化

昨年で、JIDAデザインミュージアム・セレクション事業は第20周年を迎え、特別事業を実施しました。本年度は、2020文化イベントなども視野に入れつつ、D8とも連携を更に強化しジャパンデザインミュージアム活動にも積極的に参画してまいります。

●教育活動の充実

これまで継続的に実施しているプロダクトデザイン検定事業を、今後も推進し広く社会にデザインの価値を普及させてまいります。また、デザイン学会やデザイン教育界との連携を強化し、JIDAの教育活動の幅を広げ、社会的な価値を高めてまいります。

●調査・研究事業の再構築

スタンダード委員会により発刊している、サンプル帳の充実を引き続き進め、社会のニーズに応える協会サービスを充実させてまいります。また海外への頒布・普及にも、引き続き尽力してまいります。

●企業内デザイナーとの交流と連携

インハウス委員会活動を強化し、これまで以上にインハウスデザイナーとの連携を強化していきます。毎年「インハウス女性デザイナー研究会」による研究活動と発表が行なわれていますが、今までの製造業中心の参加から、サービス産業にも広げた活動を行ないます。さらにサービスデザイン、ソーシャルデザインなど、モノだけではない「コトのデザイン」というデザイン領域の広がりにも対応していきます。

●次世代人材の育成強化

多様なJIDA活動において、若手の活動場面を増やし、協会体質の変革を推進します。そのためには、組織人事体制の刷新を進めるとともに、活動支援のために必要とされる予算措置を実施してまいります。

以上